

檜の会

謹賀新年

NPO法人檜の会理事長 安田紀美子（花柳双喜美）

第46号
平成28年
(2016)
1月1日
秋・冬合併号

発行人 NPO法人檜の会事務局
〒六〇五一〇八二三京都市東山区安井毘沙門町三三
TEL ○七五一五五一三六五三
FAX ○七五一三三〇一六三九

企画・編集 檜の会会報編集部
印刷 (有) 章美プリント
<http://hinokinokai.or.jp/>

芸能セミナー（NPO法人檜の会・東峯塾）

「上七軒の歴史」に参加して 麗の会会員 中川 悅子

皆様におかれましては健やかに新年をお迎えの事と存じます。

日頃はNPO法人「檜の会」のご支援ご指導を賜り厚く御礼申し上げます。

今年は申歳で御座います。お猿と言えば三猿「見ざる・聞かざる・言わざる」というのが定番となつております。

昨年は芸術の都、フランス・パリがテロという凄まじい事件に巻き込まれ、世界中がたいへんなショックを受けました。

常に有難い事でございます。

一般の方を始め、次世代の皆さん、日々の文化に触れて頂き、身近に感じて頂ける事を目的としまして今後も事業に精一杯取り組んで参ります。

今後とも皆様の暖かいご支援、ご指導を賜ります様心よりお願い申し上げます次第にございます。

私は柴田美智子さんからお誘いをいたしました東峯塾「芸能セミナー」にほぼ初回より参加させていただいております。

お誘いいただいた時は、私の教養の範囲で理解できるかどうか心配しておりましたが、毎回講師の方々がすべてプロの現役で日本文化の歴史を担つておられる方たちばかりなので、毎回興味深く90分の講演時間いっぱい楽しめていただけております。

平成27年9月19日（土）14時からエル

イン京都で開催されました「上七軒の歴史」に参加して、また一つ知らなかつた歴史に触れることができました。

「大文字」今井貴美子様の軽妙なお話に引き付けられました。京都には五つの花街があり、「祇園甲部」「宮川町」「先斗町」「上七軒」「祇園東」の中で一番古い花街が「上七軒」だそうです。室町時代に北野天満宮の修造に併せ七軒の茶店を建て参拝客の休憩所としたのが「上七軒」の始まりと言われています。

舞踊も五花街で異なり「祇園甲部」は

京舞井上流、「宮川町」は若柳流、「先斗町」は尾上流、「祇園東」は藤間流、「上七軒」は花柳流で、春に「北野をどり」、秋に「寿会」の公演が行われています。

舞踊も五花街で異なり「祇園甲部」はかけ致しました、当会NPO法人「檜の会」がNPO法人となり11年目を迎えまして、当初の目的は達成されましたと云う事で80%がその方向で進んでおりました。しかし物事は始める時より止めるときは、その何倍かの勇気と努力が必要だと思いました。そしてNPO法人「檜の会」は、又新たな意気吹きを得て再出發する事となりました。お喜び頂いたのは、会員の皆様は勿論の事でございますが、行政の京都府・京都市もNPO法人「檜の会」にお力を添えて見守つて下さり非



喜久苗会より「山姥」

私は柴田美智子さんからお誘いをいたしました東峯塾「芸能セミナー」にほぼ初回より参加させていただいております。

お誘いいただいた時は、私の教養の範囲で理解できるかどうか心配しておりましたが、毎回講師の方々がすべてプロの現役で日本文化の歴史を担つておられる方たちばかりなので、毎回興味深く90分の講演時間いっぱい楽しめていただけております。

私は柴田美智子さんからお誘いをいたしました東峯塾「芸能セミナー」にほぼ初回より参加させていただいております。

お誘いいただいた時は、私の教養の範囲で理解できるかどうか心配しておりましたが、毎回講師の方々がすべてプロの現役で日本文化の歴史を担つておられる方たちばかりなので、毎回興味深く90分の講演時間いっぱい楽しめていただけております。

私は柴田美智子さんからお誘いをいたしました東峯塾「芸能セミナー」にほぼ初回より参加させていただいております。

お誘いいただいた時は、私の教養の範囲で理解できるかどうか心配しておりましたが、毎回講師の方々がすべてプロの現役で日本文化の歴史を担つておられる方たちばかりなので、毎回興味深く90分の講演時間いっぱい楽しめていただけております。

私は柴田美智子さんからお誘いをいたしました東峯塾「芸能セミナー」にほぼ初回より参加させていただいております。

お誘いいただいた時は、私の教養の範囲で理解できるかどうか心配しておりましたが、毎回講師の方々がすべてプロの現役で日本文化の歴史を担つておられる方たちばかりなので、毎回興味深く90分の講演時間いっぱい楽しめていただけております。

また、一年の行事は1月9日始業式、立春前日は節分祭（北野天満宮での舞の奉納）、2月25日梅花祭（北野天満宮境内にて参拝の皆様に野点の接待）、3月25日から北野をどり、6月都の賑い（京都五花街伝統芸能公演）、7月1日からビアガーデン（上七軒歌舞練場にて）、8月八朔、10月8日から寿会、12月1日献茶祭（北野天満宮本殿大茶会、副席は上七軒歌舞練場にて立札の接待）、12月南座顔見世総見、12月13日事始めと毎年続けれられています。それぞれの行事についても歴史があり、丁寧に継承されているようです。

身に着けている着物にも決まりがあり、現代のエコの考え方を取り入れてでしょうか、暑くなれば单衣に替えている花街もあるそうですが、上七軒は場所がら西陣の方が多くご利用されていますので、10月～4月までが袷、6月と9月は单衣、7月と8月は薄物と昔ながらの決まりを未だに守つておられるそうです。

話はそれますが、最近祇園界隈でおかな着物姿をよく見かけます。皆様もきっと感じておられてることと思いますが、外国人に着物体験をという企画なのでしょうか、その着物の柄といい、生

地とい季節感もなければ、長年守り継がれてきた日本の着物文化をこのようないかに形にしていいものかと、一人ライラとしております。長年継承されている文化を伝える難しさもあるのかもわかりません。コピーではなく、「ほんまもの」を継承していかないといつの間にかコピーが「ほんまもの」にすり替わっているかもわかりません。

話をもとに戻しまして、東峯会の公演はまさしく、「ほんまもの」の伝統文化を守つておられる方たちから、直接お話を聞ける機会を与えてくださるので、引き付けられるのだと感じました。

また、最後には舞台を作つて下さり上七軒の芸妓「勝也」様が舞踊を舞つてくれました。私などは絶対といつていひほど、間近で芸妓さんの舞踊を見ることはできませんと喜んでおりました。お話を聞いて、是非機会を見つけ舞練場で北野舞練場で北野をどりを鑑賞し、ビアガーデンも覗いてみたいと思いました。

(当会会員)



芸能セミナー5周年記念「伝統芸能を学ぶ」

日時…平成27年11月11日(水)
会場…京都府立文化芸術会館

伝統への挑戦 ↗ 創作舞の試みによせて ↗

能楽師 林 宗一郎

能楽は室町時代に大成され現代にまで受け継がれている、世界に誇る日本の伝統芸能です。今回披露させていただいた

創作舞「龍虎」は、この能樂をベースに置きながら、日本舞踊や篠笛を加えて一つの舞台として構成した、新たな試みでした。

日本舞踊は、江戸時代に誕生した歌舞伎の舞踊から独立したものといい、「舞」と「踊」を組み合わせた「舞踊」という言葉自体、明治時代に生まれたものです。歌舞伎が、能や狂言の物語世界や型を取り込みながら、それらを「もどく」ようにして誕生したこれらを考えると、そもそも能と日本舞踊には歴史的・



創作舞「龍虎」



長唄「小鍛冶」



衣裳解説「鶯娘」

今回、能楽師が虎を、日本舞踊家が龍を演じたのには理由があります。虎の真直ぐに突進するイメージは、能楽の所作が得意とする表現ではないかと考えました。結果、面白い演出になつたかと思ふのですが、どうだつたでしょうか。

この二者の動きをとりもつての演奏は、能の地謡と篠笛。この篠笛が能管だつたなら、さらに強く龍虎の動きを表現できたかもしれません。しかしながら、能管ではなく篠笛だつたからこそ、ジャンルの違う芸能の間をつないでくれたのかもしれない、などと考えてみたりします。あるいは、地謡が長唄だつたらどうだつたでしょうか。能の所作がうまく絡まなかつたかもしれません。みなさんもぜひ想像してみてください。

日本の文化は、それ以前の文化を取り込みながら新たなスタイルを形作り、淘汰された末に、「伝統」として一つのジャンルを確立し、継承してきたものが多々、能楽も日本舞踊もその例にもれません。たとえば、能楽も、田楽や曲舞、白拍子といった様々な芸能を取り込みながら成立しましたし、その後も時代にあわせてその時々の流行をも取り入れながら、変化をし続けてきました。

伝統文化は、過去のものにとらわれて、ただ立ち止まっているだけでは「継承」されません。伝統にしつかりと根ざしながら、今を生き、未来へとつながっていくことこそ、伝統文化であると言えるのだと思います。

今回の創作舞「龍虎」も、ひよつとして、さまざま試みを続けていくことによつて、百年後には名作として古典に名を連ねるものになるかもしれません。そんな原石を掘り起こし、あるいは新たに作り、そして磨き続けることもまた、伝統芸能を継承する上での大切な活動なのだと考えています。

日米作家国際交流展に寄せて

伊砂 正幸

数年前から、ロサンゼルスのアーティストと日本のアーティスト（主に九州の作家さん）との日米作家国際交流展に参加しています。今回、ロサンゼルスの方々の強い要望もありメイン会場の福岡の美術館とは別に、巡回展として京都展が実現しました。



会場は、京都市国際交流会館。交流展の主旨を簡単に述べると、実行委員会を、ロサンゼルスと九州に拠点を置き、展覧会における交流をとおして、芸術活動の研鑽と社会への文化振興、文化普及に向けて努力し続けることを目的として設立し、新たな創造の可能性が広がるために尽力していくたいと考えています。京都市国際交流会館は、2

いろと案を巡らせながら、檜の会、理事長安田紀美子先生にご相談したところ、前述の交流展の主旨に賛同いただき、先生の日本舞踊の世界にふれさせていただける事となりました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。場所は、東山安井、檜の会事務局の1階。立派な檜舞台で、先ず、先生に二曲舞踊を舞っていただきました。アメリカ人、日本人の作家さんたちは、真剣な眼差しで見詰め、感動されている表情を浮かべておられました。

その後、Veldaさん、Julienne Marlaさん、

Marlaさんの女性3人も舞台に上げていただき、扇子を手に取り、先生に稽古をつけていただきました。（私事ではありますが、今年に入り、書道の稽古に行き始め、ちょうど、日本の伝統性を再認識しております。）しばらくの間は三人とも、ぎこちない動きをされていましたが、先生のご指導のもと、貴重な体験ができたことでしょう。また、三人だけに限らず、アメリカ人、日本人の作家さんたちは、ただ、見学するだけの観光でなく、京都の伝統芸能の深さを肌に感じることがでできたと認識しております。

さて、ロサンゼルスの作家さんは、京都の魅力にひかれ、楽しみにされていた様子でしたので、交流展以外にも何かイベントを考える必要がありました。いろ

研修 『南丹市を訪ねて』

奥村 澄子

十月五日、西日本ツーリストの野中一秀様のお世話で南丹市へ社会視察に出かけました。

理事長はじめ理事・会員七名が二台の車に分乗し、野中様の案内で「日本天鵞絨工業株式会社」と「梅若家菩提寺曹源寺」を見学訪問しました。

日本天鵞絨工業株式会社は明治二〇年の創業当時から江戸時代以来のビロードの製法を受け継ぎ、現在の京都において唯一「有線天鵞絨」を製造し続けている会社だそうです。広い工場の中には天鵞絨の織機をはじめゴブラン織りやホースヘアーの織機など貴重な骨董織機が十数台並んでいました。藤本社長の説明により、高度な技術によってできる



それが織物の高価さが納得できました。思い返せば、私たちが結婚する頃、嫁入り道具の一つとしたが、先生のご指導のもと、貴重な体験ができたことでしょう。また、三人だけに限らず、アメリカ人、日本人の作家さんたちは、ただ、見学するだけの観光でなく、京都の伝統芸能の深さを肌に感じることがでできたと認識しております。

あらためて、安田紀美子先生には、誠意をもつて御礼申し上げます。

(当会理事)

し、今では下駄の鼻緒にその需要があるそうです。日本鵞絨工業は一方で重要な化財の修復のための天鵞絨を製造され続けておられる稀有な存在だそうです。大切に伝統技術を守っていただきたいと思いました。

天鵞絨工場を後にし美山かやぶき美術館へ向かいました。本来なら月曜日で休館でしたが、野中様のご配慮で見学させていただきました。自然の織りや色に拘る方の『手織り三人展』を鑑賞しました。道中、梅若家の墓に参り、殿田川の畔にある觀世流の名家『梅若家』の菩提寺曹源寺を訪問しました。梅若家は日吉を本拠に丹波猿樂の梅若座を構え、觀世流に合流したという歴史があります。

ご住職のおもてなしを頂き、夕もやに包まれていました。梅若家のご先祖に参拝させて頂きました。あたりはすつかり夕もやに包まれていましたが、殿田川に架かる橋に謡の狂女がレリーフに彫られた欄干をバックに記念撮影をして帰途につきました。途中、道の駅スプリングス日吉に立ち寄り、閉店間際の店内を急いで駆け回り夕餉の材料を買いました。もうすっかり日が落ちた南丹の山間を急ぎつつ、最後に日吉ダムを上から眺めに立ち寄り、無事帰ってきました。穏やかな秋日の有意義な一日でした。

(当会専務理事)

報告

邦楽『小鍛治』

講師 吉住小貴三郎

唄 三味線

◆ H27・8・3(月) (第4回)

於・当会事務所

◆ H27・9・12(土) (第5回)

於・レストラン キエフ

日本舞踊『鶯娘』—舞台衣裳の妙技—
講師 新谷 隆志

◆ H27・6・24(水) (第1回)

於・当会事務所

◆ H27・9・3(木) (第2回)

於・当会事務所

◆ 【協議会】

【事業】(行事・催事)

◆ 【芸能セミナー「上七軒の歴史」】

講師 今井貴美子氏

◆ 舞踊 上七軒・芸妓 勝也

◆ H27・9・19(土) 14時～15時半

会場・エルイン京都
(1頁関連記事参照)

◆ 【見学研修会(南丹市)】

園部町 日本天鷲絨(ビロード) 工業

◆ 【株式会社】

美山町 かやぶきの里

日吉町 観世流名家「梅若家」墓参

菩提寺曹源寺訪問

◆ 日時・H27・10・5(月)

(3頁関連記事参照)

◆ 【京都府次世代等古典芸能普及促進公演】

『伝統芸能を学ぶ』(芸能セミナー)5

周年記念——鳥獣戯画の世界——

日時・H27・11・11(水) 13～16時

会場・京都府立文化芸術会館

総合司会 福井栄一(上方文化研究家)

舞台構成 中田節(株)アルファ舞台

創作舞 『龍虎』 講師 林宗一郎

虎林宗一郎

◆ 【NPO法人「檜の会」】
NPOネバール教育開発センター支援
第20回(10周年記念)
『チャリティ歌謡祭』主催京都大三六会
日時・H27・10・18(日) 11時～会場・京都タワーホテル9F八閣の間
当会会員近藤克美氏、率いられる京都
三六会の皆さんのが本物の歌手かとお見
えする立派な装いで個性豊かな歌唱を
ご披露していただき檜の会へ多額の貴
重なご淨財を頂戴致しました。感謝至
極です。

【理事会】

◆ H27・8・3(月) (第4回)

吉住小貴三郎 小椋 千晶

花垣 嘉津枝 金 玖美

吉住小貴三郎 日下真衣子

花垣 嘉津枝 金 玖美

吉住小貴三郎 日下真衣子

会員情報

お知らせ

◆ 日本古来の染色技法 研修・研修会

◆ 『型染日本手拭いの制作』

◆ 講師 伊砂正幸氏(染織家)

◆ 日時・H27・12・12(土) 13～16時
会場・伊砂工房(左京区南禅寺)

編集後記

◆ 昨年は「ひつじ年」で穏やかな一年と

思いましたが、テロや大規模災害など、

思いがけない事象に驚き、年末は暖冬に

て、降雪など相当遅れた年でした。明け

て「丙申の2016」、地球規模の気候

異変で大規模化に遭遇せぬよう、情報入

手に心がけ、猿さんのように動きまわれ

る一年でありたい。微力ながら御力添え

が出来たらと思っております。各種行事

への参画をお願いします。(木下)

——NPO法人「檜の会」入会のご案内——

「檜の会」は日本の伝統芸能を守り楽しむ会として発足、日本の伝統芸能文化(古典芸能・民族音楽・美術工芸・文学など)を各分野の専門家から学び、新しい文化や芸能の息吹を京都から世界に発信できれば素晴らしいことだと思って活動を続けています。

【入会金及び会費】

正会員(入会金)(個人)	(年会費)2,000円	賛助会員(入会金)(団体)	(年会費)10,000円	学生会員(入会金)(免除)	(年会費)2,000円

【会員の特典】

伝統文化芸術・芸能の研修会や、ホールや劇場での鑑賞会にご招待またはご優待。
「檜の会」会報誌の無料送付。

——「檜の会」会報原稿募集——

会員の皆様からのお知らせなどを積極的に掲載いたします。催事の予定や参加行事。消息・ご意見など掲載したい記事を編集部までお寄せ下さい。

(編集部)

企画・編集・檜の会会報編集部
田中重太郎・中田節・奥村澄子・木下隆
会報はホームページでもお読み頂けます。
編集部FAX:○七五七二一四七七四
メール:alphankt@gmail.com